

関係者の声



山から海までの
水の流れが糸島を育む

ひやま
火山里山保全交流会
代表
吉村 榮次さん(志摩稲留)

火山の里山の保全活動をして10年になります。竹を伐採し、地域のみなさんや子どもたちと桜や雑木の植樹をしたりしています。この10年は、竹林との戦いでした。竹は年々はびこり、今は火山の頂上まで達しています。

火山の竹林を伐採する過程で分かったのは、里山を整備すれば、いろんな種類の植物や昆虫が増え、鳥も集まってくる。火山の動植物を取りまとめ、冊子にする予定です。

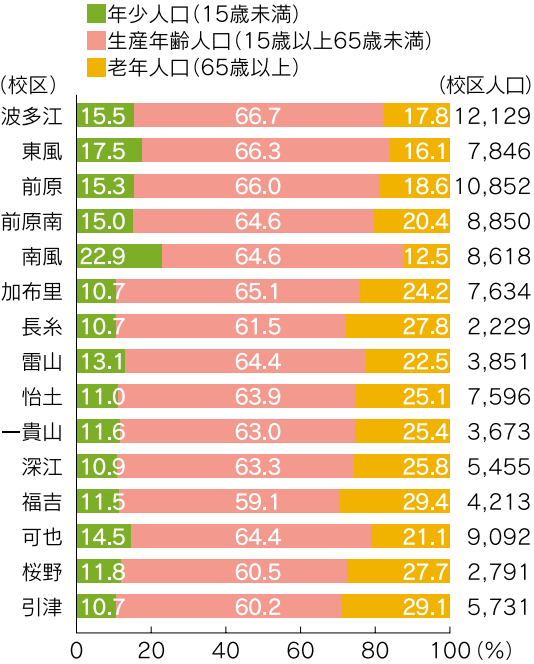
この活動には九州大学の竹利用研究会も参加し、竹チップを細菌で腐食させ、炭や灰などを混ぜ、焼畑農業と同じ効果のある肥料を研究してもらっています。もう少しで完成する予定です、火山発の新製品ができるかもしれないと楽しみです。

糸島の自然は、里山のきれいな地下水が川を下り、田畑を潤し、海に注ぎ、魚介類や海藻を育むことで守られていると思います。山から海までの水の流れが、糸島の「食」や「景観」「空気」などを生み、そこに住む子どもからお年寄りまで、すべての人たちの体と心を育んでいると感じています。

「糸島らしさ」の原点は、ここ、里山保全にあると思います。

糸島市は、これからどんどん発展すると思います。地域の子供たちが火山で経験した自然とのふれあいが、糸島が発展していく中で、糸島らしさを守っていくための大きな力になっていくものと願っています。

図① 各校区の年齢区分人口割合
(平成22年9月末住民基本台帳データ)



※姫島は引津校区に含む

●校区まちづくりの推進
平成17年以降、糸島地域では、九州大学を核とした学術研究都市づくりが進められています。この各種活動に配慮しながら、「均衡ある発展」を進めていきます。
最近では、市民ニーズが多様化・複雑化しています。そのため、これらへの対応を行政だけの力で行うことはとても難しい状況です。
長期総合計画では「市民と

行政とが協働で進めるまちづくり」を基本としています。各校区の特性に応じて、市民自らがまちづくりを進める「校区まちづくりの推進」を重点プロジェクトの一つに掲げています。
各校区で特色のあるまちづくりが展開されることが、未来の糸島市の均衡ある発展につながります。
●自然に配慮した開発
企業誘致は、地域経済の活性化や雇用の確保、将来のまちづくりのため、とても重要です。さらに、新技術・産業による国際競争力の強化など、九州大学や糸島リサーチパークから生まれる企業や新産業の受け皿づくり(開発)が必要です。

特に「水素」による燃料電池や「半導体」の大規模集積回路(LSI)の研究は、高い省エネ性が見込まれ、地球温暖化の要因と考えられるCO₂を削減し、豊かで質の高い低炭素社会を構築し、人類の未来の環境を守るためにも有力な科学技術です。
これらの研究に関連する企業が、糸島市に集積する可能性は高く、その受け皿としての工業団地の造成は、特に必要なのです。



九州大学の研究に触れる子どもたち、将来はエンジニアになるかも

糸島でイベントを行えば、たくさんの人が集まります。併効果で、糸島の魅力についてテレビや新聞紙上で盛んに特集が組まれています。
そのほか、歴史・文化や

糸島市には、世界から注目されている水素研究や最先端の半導体研究などが行われ、今後、企業の進出が期待されます。
また、従来からある、農業や漁業。これらは、豊かで高品質な食材を生み出す糸島の魅力として、改めて注目されています。
さらに、市内にたくさんある工房なども、産業としてだけでなく、糸島市に行きたくなる観光の魅力の一つとして注目されています。
糸島でイベントを行えば、たくさんの人が集まります。併効果で、糸島の魅力についてテレビや新聞紙上で盛んに特集が組まれています。
そのほか、歴史・文化や

●糸島市の基本的な考え方
市の面積は約216km²で県内第6位。人口は約10万人で県内第7位(平成22年9月末現在)。人口分布は、図①のとおり地域によって大きな違いがあります。
市は「第1次糸島市長期総合計画」を策定しています。これは、市の今後10年間のまちづくりの基本方針を示す

計画です。この中で、各地域の特性や資源を生かして均衡あるまちづくりを進め、総合的に市の発展をめざすこととしています。
これは、すべての地域で一律に都市化を進めることでも、開発を抑制して自然を守ることでもありません。それぞれの地域の特性に合わせ、メリハリのある、バランスの取れたまちづくりを進めることを意味します。

環境に配慮したまちづくり

次世代のために築き上げるもの、引き継いでいくもの

魅力いっぱい糸島

期待される企業の進出

糸島市には、世界から注目されている水素研究や最先端の半導体研究などが行われ、今後、企業の進出が期待されます。

また、従来からある、農業や漁業。これらは、豊かで高品質な食材を生み出す糸島の魅力として、改めて注目されています。
さらに、市内にたくさんある工房なども、産業としてだけでなく、糸島市に行きたくなる観光の魅力の一つとして注目されています。

市民の参画が大きな力

九州大学伊都キャンパスの移転に伴い、あらゆる分野で、九州大学との連携が可能となりました。農業分野など、九州大学との連携が盛んに行われています。
今後は、市民の中から、糸島の魅力を活用したり、九州大学と連携したりしながら、起業する人が出てくるかもしれません。

未来の糸島市を、より住みやすく魅力的なものにするには、市民一人ひとりが、生活や仕事、ボランティア活動、遊びなどとおして、まちづくりに参画していくことが大きな力になります。
糸島で働くことができる、学ぶことができる、生活することができる。私たちが、次の時代を担う子どもたちのために、築き上げられるものがあるのです。

糸島の均衡ある発展



学びも遊びも思いっきり……糸島の子どもは恵まれているのかもしれない